

新庁舎 建設事業について



林 悦子議員

問 新庁舎建設事業が、令和7年を目途に始まる。

建設地の大和庁舎は、中心市街地ではないが、市の中央に位置し、日本の良き里山の景観の中に、建つことになる。新庁舎は、コロナ後、変化する人々の意識を踏まえ、従来の役所のイメージを払拭すべきである。発想を大きく転換し、市民を支える、モデルになるような役所を建ててほしい。

提案型のプロポーザル方式で公募する、ということだから、重視する点を、前もって示し

の方が良いのではないか。

答 市長公室長 条件として以下の4点を考えています。

①防災拠点としての計画性。災害時の司令塔と平常時の両立。

②市民サービス向上への空間構成。来庁者が効率よく動ける動線と、プライバシー保護。

③建物内部の機能性と、全体の経済性。維持経費減を含め、無駄を省き、シンプルに。しかし粗雑でない。

④地形を生かした配置計画。地面の高さが3段階ある。この特徴を生かした提案を重視。

問 玄関エントランスに、会議の後に、市民が雑談できる交流スペースがあると良い。災害時には、臨時の避難場所にもなる。

答 市長公室長 目的を終えて、一息つける魅力的な空間を重視します。

問 職員の職場環境に、心身両面から配慮してほしい。例えば給湯室。茶碗を洗う所だが、安普請のガス台と流し台、食器棚というのがこれまで。これを仕事のオン・オフの切り替えができるように、キッチンや窓・カーテン等、居心地に配慮した方が良い。

また、トイレについては、排泄・手洗い・歯磨きは分けるべきである。女性視点・動線を考えてほしい。

答 市長公室長 執務ゾーンとサポーターエリアを適切に配置したい。